

関係各位



センチュリー・システムズ株式会社
代表取締役 田中 邁

IoT ゲートウェイ **FutureNet MA-E300** シリーズで AWS IoT に対応

センチュリー・システムズ株式会社(本社:東京都武蔵野市、代表取締役:田中邁、以下:センチュリー・システムズ)は、IoTシステムのゲートウェイ装置として利用されている **FutureNet MA-E300** シリーズ製品で、アマゾンウェブ サービス(以下、AWS)の AWS IoT(*1)を活用できるよう機能を強化します。

IoTシステムの拡がりに伴い、IoTゲートウェイ装置にも機器単体としての機能拡充にとどまらず、システムを構成する様々な要素と切れ目なく連携することが求められています。弊社のLinuxプラットフォーム製品 **FutureNet MA-E300** シリーズは、様々なデバイスと接続できるよう幅広いインタフェースを搭載しているのが特徴です。耐環境性にも優れていることから、とくに屋外での監視、観測、制御用のIoTゲートウェイ装置として多くの導入実績があります。

一方、IoTゲートウェイ装置からクラウド方向への接続については簡単なデータ収集にとどまらず、クラウドが備える様々な機能を活用できるような双方向の連携を求められるケースが増えつつあります。今回 **FutureNet MA-E300** シリーズではそのようなニーズに対応する最初の取り組みとして、AWSがIoT用途向けに提供しているAWS IoTとの連携機能を標準搭載したファームウェアの提供を開始致します。

AWS IoTはクラウドでセンサのデータを収集、監視するだけでなく、クラウドからデバイスを制御するしくみも備えているのが特徴です。**FutureNet MA-E300** シリーズはこのAWS IoTが備える機能をフルに活用するためのソフトウェアを搭載します。これにより、AWS IoTの特性を生かした強力なIoTアプリケーションを簡単に構築できます。さらにAWSが提供するAWS Lambda、Amazon Kinesis、ElasticSearch/Kibana、Amazon Relational Database Service (Amazon RDS)、Amazon DynamoDB、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3)といった関連サービスとの組み合わせについてもシステムとして提供できる体制を準備しています。

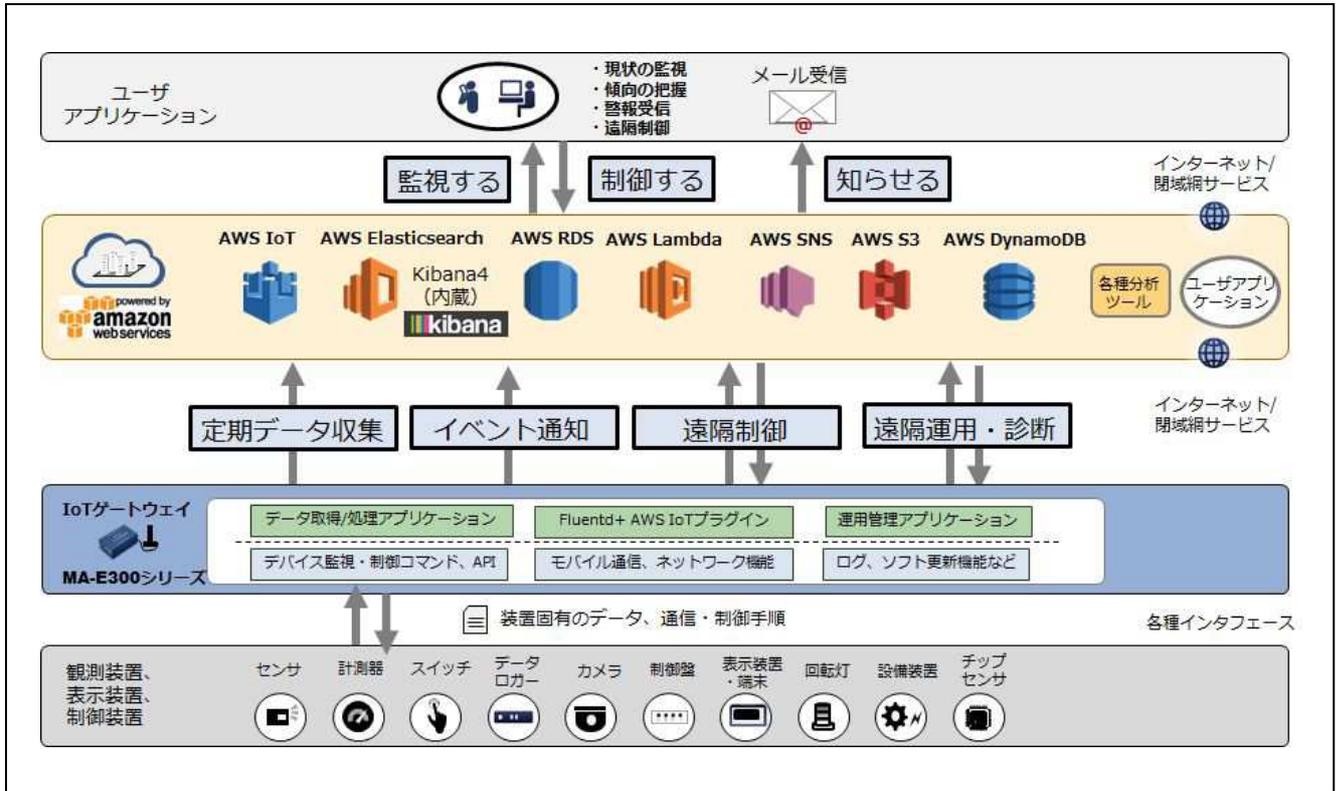
FutureNet MA-E300 シリーズの「**MA-E3xx for IoT**」ファームウェアは様々なクラウドサービスに柔軟に対応できるようOSSのfluentd(*2)を標準搭載しています。今回、fluentdのプラグインソフトウェアとしてAWS IoT用のプラグインを追加で搭載します。また、センサ・デバイス側についてはデータ取得、制御については従来通りのAPIの提供に加え、サンプルアプリケーションを追加します。この「**MA-E3xx for IoT**」ファームウェアは10月17日より弊社のマイクロサーバ開発者用サイトから無償ダウンロード提供を開始します。



【写真:IoTゲートウェイ装置として利用される代表的なモデル **FutureNet MA-E350/NL**】

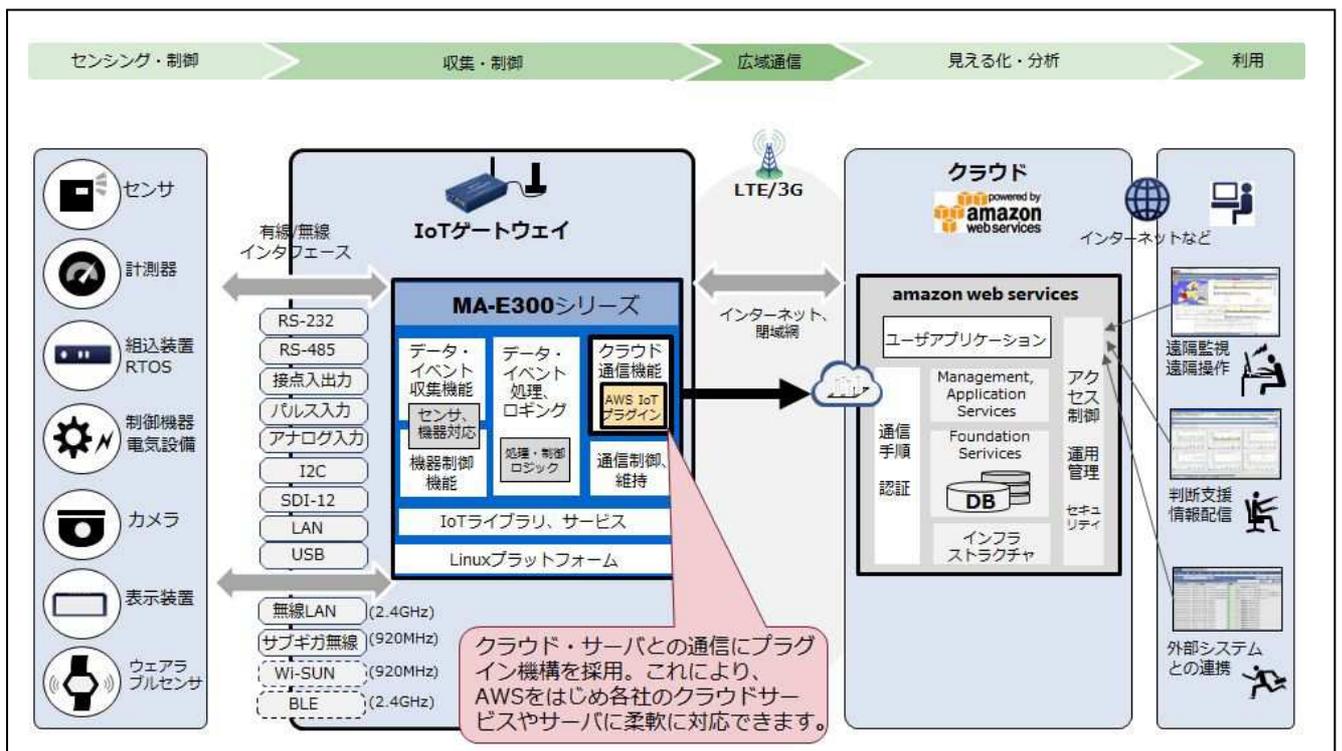
■ 「MA-E3xx for IoT」ファームウェアを利用した IoT システムの構成例

FutureNet MA-E300 シリーズと AWS の各種サービスを組み合わせて、監視/制御を含む強力な IoT アプリケーションを効率よく構築できます。



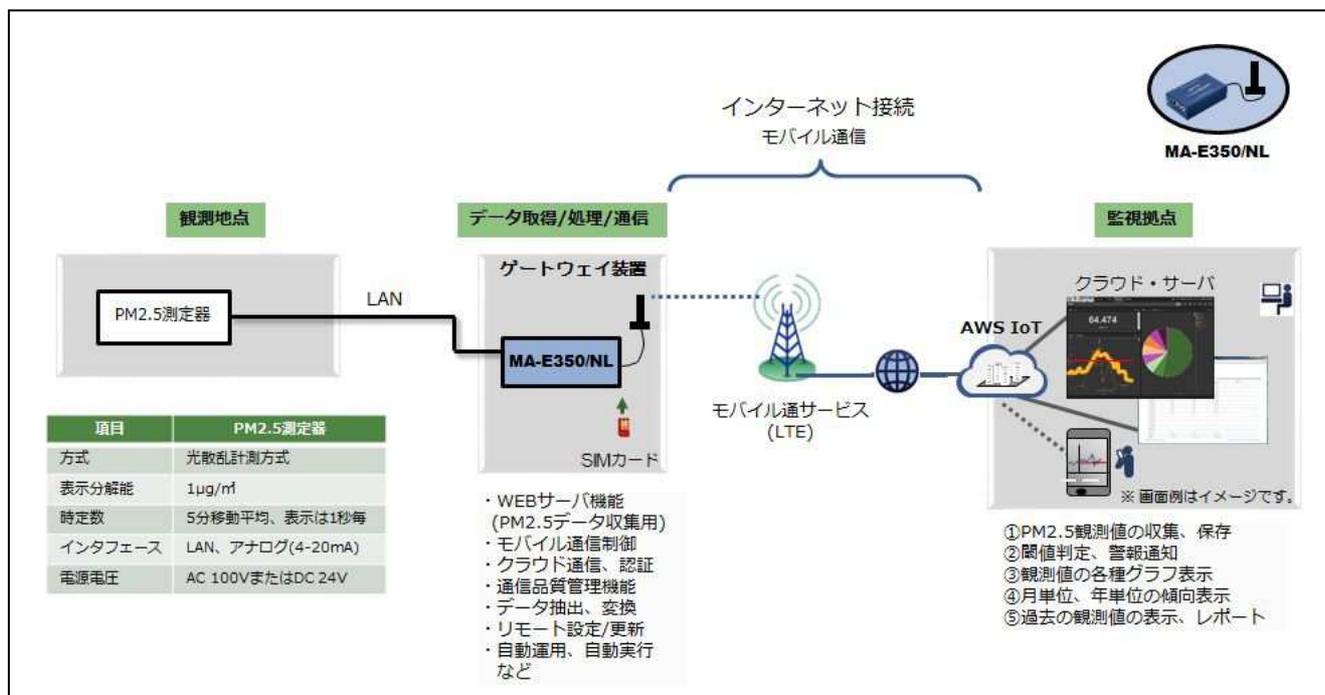
■ IoT ゲートウェイ装置としての **FutureNet MA-E300** シリーズ

FutureNet MA-E300 シリーズは IoT ゲートウェイ装置としてクラウド通信機能とセンサ・デバイスとのインタフェース機能を 1 台で実現します。



■ IoT システムの実現例:PM2.5 の計測システム

PM2.5 の測定器の情報を **FutureNet MA-E350/NL** を介して定期的にクラウドへ送信する IoT システムの事例です。クラウド側では学校や病院などの公共施設の利用者向けに PM2.5 の状況を配信します。



*1

AWS IoT は、接続されたデバイスが簡単かつ安全にクラウドアプリケーションやその他のデバイスとやり取りできるマネージド型クラウドプラットフォームです。**AWS IoT** では数十億のデバイスと数兆のメッセージをサポートし、それらのメッセージを **AWS** エンドポイントおよび他のデバイスに確実かつ安全に処理しルーティングします。**AWS IoT** によってアプリケーションはそれらが接続されていない場合でも、全てのデバイスを常に追跡し通信することができます。

AWS IoT を使用すると、**AWS Lambda**、**Amazon Kinesis**、**Amazon S3**、**Amazon Machine Learning**、**Amazon DynamoDB**、**Amazon CloudWatch**、**AWS CloudTrail**、および **Amazon Elasticsearch Service** (組み込みの **Kibana** と統合されている) といった **AWS** の各種サービスを簡単に使用できます。インフラストラクチャを管理せずに、接続されたデバイスが生成したデータを収集、処理、分析、実行する **IoT** アプリケーションを構築できます。

*2

fluentd は米 **Treasure Data** 社が中心となって開発したオープンソースのデータ収集管理ツールです。ログやセンサデータなどの情報を収集し、**JSON** 形式に変換して転送する機能を持ちます。「スキーマレス」「プラグイン機構」「バッファリング機構」などの特徴があります。**fluentd** ではインプット/アウトプット部分はモジュール化されているため、転送するデータの入力元や出力先を柔軟に入れ替えることができます。**AWS IoT** との通信部分は **fluentd** のアウトプットプラグインとして実装しています。

アマゾン ウェブ サービス、**AWS**、**AWS Lambda**、**Amazon Kinesis**、**Amazon S3**、**Amazon Machine Learning**、**Amazon DynamoDB**、**Amazon CloudWatch**、**AWS CloudTrail**、**Amazon RDS**、**Amazon Elasticsearch Service** は、米国その他の諸国における、**Amazon.com, Inc.** またはその関連会社の商標です。

FutureNet®はセンチュリー・システムズ株式会社の登録商標です。

/// センチュリー・システムズ株式会社について ///

センチュリー・システムズは、エンタープライズから組み込み、IoT/M2M システム開発等ネットワーク分野を中心に、ハードとソフトの開発をおこなう開発会社です。FutureNet®ブランドでの自社製品の提供を中心として、製品のカスタマイズや新規開発を含む受託開発、OEM 提供、ASP・クラウドサービス (Warplink®)の提供をおこなっています。受託開発ではM2M、センサネットワーク、遠隔監視制御、高信頼ネットワーク、専用ゲートウェイなどの装置/システム開発や通信プロトコルのライセンス提供などで幅広い実績を持っています。

- ・会社名 : センチュリー・システムズ株式会社
- ・所在地 : 東京都武蔵野市境 1-15-14
- ・代表者 : 代表取締役 田中 邁
- ・事業内容: ネットワーク製品ブランド FutureNet シリーズの開発・販売、製品のカスタマイズ、OEM 提供、IoT/M2M システム開発、受託開発、コンサルティング、ASP・クラウドサービス

● お問い合わせ先

本ニュースリリースに関するご質問、お問い合わせは弊社営業推進部 城谷(しろたに)までお願いします。

なお、ニュースリリースに掲載されている情報は、発表日現在の情報です。その後予告なしに変更されることがございますので、あらかじめご了承ください。

電話 0422-37-8911

FAX 0422-55-3373

電子メール press-release@centurysys.co.jp

ホームページ <http://www.centurysys.co.jp/>

以上、弊社取り組みの紹介をさせていただきます。何卒よろしくお取り計らいの程、お願い申し上げます。